

習い事を変える感覚でふぉーらいふへ

息子は、小学校4年生まで皆勤賞で学校に通っていました。ところが5年生になって急に学校に行き渋るようになりました。行き渋るようになった期間は2・3か月程度、そこから急展開で、ふぉーらいふに通うことになりました。そして、結果とても楽しく生き生きと通っています。

この話を周りの方にとすると、決まって皆さんが子どもが学校にいけないことを心配してくださいます。そして、親の心労を想像してくださり「お母さん大変だったのでしょうか。」と声をかけていただきます。ただ、我が家の場合は「習い事を変える気軽な感覚」で居場所を学校からフリースクールに変えただけという親子の認識だったので、心配していただいてこちらがそんなに悩んでいないことが申し訳なくなるような状態でした。

小学校になって、彼は全力で学校を楽しんでいました。お休みすることもなく、誰とでも関われる、学ぶことやたくさんの人と出会うことが新鮮だったのだと思います。四年間欠席なく、毎日学校に行きました。

コロナ渦、5年生になって、少し思春期の影が感じられるようになった彼は急に学校を嫌がるようになりました。その嫌がり方は、親の私もびっくりするような普段見せない表情で、学校に対する拒否感がすごかったです。話を聞くと、学校の勉強が面白くない、ルールに縛られるのが窮屈すぎるということでした。あんなに楽しく行っていたのに、彼は成長したんだなあと感じました。幸い、友達トラブルがあった訳ではなく、私の気持ちは乱れませんでした。

週一回休むことで、折り合いをつけようとしたのですが、学校に行くのが嫌な彼の様子は変わりません。毎日「学校に行きなさい」と私が言って、彼が「嫌」というのが続くのは精神的にお互いよくないなと思ったので、すぐに頭の片隅にあったフリースクールのホームページを再び訪れました。

一目で、今の彼に合いそうだと感じ、彼にもホームページを見せたら「行きたいかもしれないけど、どんなところか想像がつかない。」とのこと。

早速見学に行き、中林さんとお話させていただき、フリースクールの見学。息子はまだ学校に週4回行っていたので、中林さんには、「学校、行けているんだけどねえ、どうする？」と聞かれたくらいです。

帰り際、フリースクールの外の階段を降りた瞬間に、彼は自ら「絶対に行く！！！！」と言ってきました。ふぉーらいふは、親でなく子どもの意志で入るか決めるとのことだったので、必然的にその日に決まってしまうました。(笑) 彼が学校に行くのを渋っていた期間は、2～3ヶ月くらいで、まだ学校にも行ける状態ではありました。

しかし、我が家は習い事を変える感覚でフリースクールを選びました。それが一番親も子も楽で楽しそうだったからです。展開が突然すぎて、学校の先生や友達を驚かせてしまいましたが、早く選んでよかったなと感じます。

ふおーらいふという「居場所」は、よっぽど彼に合ったようで、通い出すと彼の表情や発言がこれでもかという程生き生きしてきました。

今回息子は、いわゆる「不登校」にはなっていませんでしたが、いわゆる「不登校問題」を真剣に考えるきっかけになりました。そこでわかったのは、不登校と言っても様々な状態の子がいるということです。そして、不登校状態でない子も、学校が自分に合っていない場所だと感じている場合もあるということです。

息子の場合は、居場所を変えるだけで問題がスムーズに解決しましたが、もちろんフリースクールにも合わない子もいます。

ふおーらいふに出会って、先生たちの考えに触れ、その子にとって一番良い道を考えるということが大切なのだとなりが付かされました。お家が合っている子もいるし、他の習い事が居場所になる場合もあるでしょう。それ以前に、体調の問題であったり、もう少し親子が向き合うことが必要だったり、カウンセリングの助けを借りたりと様々な状態の子がいます。

親は、どうしても固定概念で「学校はいかなければならない場所」と思いがちです。それを言葉に出して子どもに強要するわけでもなくとも、本心では「行ってほしいのになあ。」と思ってしまうので、気持ちが伝わって子どもの負担になることもあります。親の期待に応えられないことは、子どもにとって非常に悲しいことです。

私が息子に学校に行きなさい！と促していた親としての気持ちは、本当に息子のことを考えて言っているのではなく、学校に行かないなんて変な目で見られるという世間体であったり、家にいると誰も相手ができないから心配ということだったり、毎日朝から「学校に行きなさいよ！」と声をかけなければいけないなどの、自分主体の「めんどくささ」から来ていたんだなと後から気が付きました。そのフィルターが取れた時に、私も初めて「純粹に息子が学校に行きたくないと困っている」状態であることを理解したのだと感じます。親の気持ちと、子どもの気持ちは分けて考えることはとても大切だと今回学びました。

ひとつ言えるのは、学校にいけないことは、ダメなことや恥ずかしいことでは絶対にありません。習い事を変える時、私達親はこれはもう卒業でいいかなとか、これは子どもに合っていなかったななどと、スムーズに辞めたりその子のタイプに合わせて違う習い事に変えると思います。そのように学校のことも捉えてみると、気持ちが楽になる方もおられるんじゃないでしょうか。

彼が、ふおーらいふで自分で勉強するタイミング考えたり周りの方と話し合ったり遊んだりして、贅沢な時間を楽しそうにすごしている姿を見るとこちらも嬉しくなります。そして、こちらも笑顔になります。ありきたりですが、おうちの人が笑顔でいられることが、子ども達にとって何より嬉しいことです。

ふおーらいふは、それを感じさせてくれる場所です。

(保護者さんより)